

令和2年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業  
 (I 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)  
 事業内容報告書の概要

令和2年度に実施した取組の内容及び成果と課題

1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等)

「知立市早期適応教室」

- 事業の実施主体・・・知立市教育委員会
- 拠点校の設置・・・知立市昭和9丁目1番地(知立市立知立東小学校内)
- 対象児童生徒・・・知立市内の小中学校に在籍、かつ、「知立市早期適応教室実施要綱」に該当する者
- 実施期間・・・毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 実施時間・・・午前8時20分から午後2時50分まで
- 活動内容・・・児童生徒に対して、初期の日本語教育や小中学校への適応指導を行い、その在籍する小中学校への早期の適応を図るために活動を行う(初期の日本語教育・学校生活適応指導・その他早期に適応するために必要な支援)
- 指導者・・・令和2年度体制

早期適応教室指導員として計4名

- 室長1名(時間額者)・・・教員免許を有する者  
原則として週5日、1日5.5時間×210日の勤務
- 他指導員3名(月額者2名・時間額者1名)・・・日本語及びポルトガル語の高い運用能力を有する者
- 外国人児童生徒への日本語指導の専門教育を受けた者、または指導経験を有する者  
原則として週5日、1日5時間45分(8:30~15:15、60分の休憩を含む)の勤務

○連絡協議会「外国人児童生徒教育担当者会」

参加者・・・(市内10校)各校の日本語教育担当者(主に教諭)計10名と学校教育課1名(市教委代表)

2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)~(13)について、それぞれ記入すること

(1) 運営協議会・連絡協議会の実施

連絡協議会「外国人児童生徒教育担当者会」を令和2年5月26日(金)開催した。

主催・・・知立市教育委員会(知立市役所内で開催)

開催時期・・・毎年1回。5月に開催(数年以上前から開催している)

議題等・・・地域における外国人児童生徒の現状を把握し、個別の指導計画のあり方について協議

(2) 拠点校の設置等による指導体制の構築

拠点校である知立東小学校内の空き教室において、早期適応指導教室指導員(計4名。うち、室長1名は教員免許を有する者)を市が直接雇用し、外国人児童生徒に対して初期の日本語教育や小中学校への適応指導を行い、その在籍する小中学校への早期の適応を図るための活動を実施した。

(4) 「特別の教育課程」による日本語指導の実施

「特別の教育課程」による日本語指導の実施のための担当者会を開催した。

(6) 日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣  
必要に応じ、早期適応教室に早期適応教室指導員等を派遣した。

①日本語指導ができる支援員の名称及び人数	②児童生徒等の母語が分かる支援員の名称及び人数
名称: 早期適応教室指導員 人数: 1人 名称: 早期適応指導員 人数: 2人	名称: 日本語翻訳者(タガログ語) 人数: 1人

(12) 成果の普及

- ・「外国人児童生徒教育担当者会」において、成果を市指導主事（早期適応教室担当）が発表した。知立市教育委員会主催（知立市役所内で開催）で、市内小中学校の日本語教育担当者（主に教諭）計10名と学校教育課1名（市教委代表）により、5月26日(火)開催した。
- ・視察を受入れ、取り組みについて情報交換を行った。  
「R2 9/23(水)愛知県知多市教育委員会学校教育課3名」「R2 10/14(水)愛知県社会活動推進課2名」

3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

(1) 運営協議会・連絡協議会の実施

成果・・・指導者が個に応じた適切な支援体制における、各校の情報共有等の連携が深まった。  
課題・・・大学と小中学校が連携することにより、先進的な教育プログラムの開発と全国への情報発信を検討したい。

(2) 拠点校の設置等による指導体制の構築

成果・・・早期適応指導教室に通室する児童が、知立東小学校でスムーズに学校生活をスタートさせる効果が有った。また、拠点校で蓄積した日本語指導ノウハウを他校に還元出来た。  
課題・・・拠点校で蓄積した日本語指導ノウハウによる効果を検証していきたい。

(4) 「特別の教育課程」による日本語指導の実施

成果・・・「特別の教育課程」実施のためのカリキュラムマネジメントについて理解し、指導者及び支援者の役割を明確にした個別の指導計画を立案が出来た。  
課題・・・個別の指導計画の実施・見直しのサイクルを明確化し、対象児童生徒の日本語力や在籍学級の学習への習熟度が向上を図りたい。

(6) 日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣

成果・・・必要に応じ、早期適応教室の早期適応教室指導員を派遣した。  
課題・・・人的体制の充実。

(12) 成果の普及

成果・・・「外国人児童生徒教育担当者会」において、成果を市指導主事(早期適応教室担当)が発表した。

知立市教育委員会主催（知立市役所内で開催）で市内小中学校の日本語教育担当者（主に教諭）計10名と学校教育課1名（市教委代表）により、5月26日（火）開催。

成果・・・視察を受入れ、取り組みについて情報交換を行った。

「R2 9/23(水)愛知県知多市教育委員会学校教育課3名」「R2 10/14(水)愛知県社会活動推進課2名」

課題・・・この事業における県内他自治体の持つ課題を、本市も共有することで連携して解決策を図りたい。

日本語指導が必要な児童生徒のうち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒の割合	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
	100%	100%	%	%	%	%
うち、個別の指導計画の指導目標が達成できた児童生徒の割合	100%	100%	%	%	%	%

#### 4. その他(今後の取組予定等)

今後は、教室運営の拡充(対象者を「小学校」と「中学校」に分けるために2拠点へ)・将来を見据えた指導者の若返りと経験の引継ぎを図りたい。

※枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない) 成果物等があれば別途提出すること。